

News Release

2016年5月17日
日立キャピタル株式会社**沖縄県読谷村(よみたんそん)でのいちごの生産・販売事業の計画について**
ー日本の地方創生と農業の競争力強化へ貢献ー

「いちご高設栽培システムでの生産イメージ」

日立キャピタル株式会社(執行役社長:川部 誠治/以下、日立キャピタル)は、同社グループにおいて、いちごの生産・販売事業に取り組むこととしました。2016年6月より沖縄県読谷村でファームの建設準備に着手し、事業の開始は2017年度を予定しています。当面の目標として、生産開始3年目に年間4.5トンのいちごの収穫をめざします。

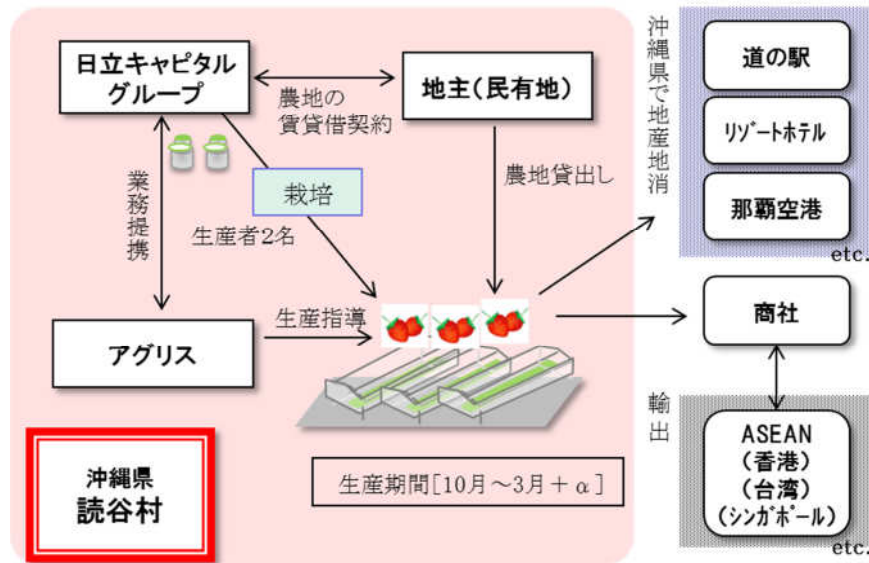
今後、いちごの生産技術の安定化や生産工程管理(GAP認証の取得)、海外への輸出、販路の確立などの事業ノウハウを蓄積し、外部への展開も含めた事業モデルを構築していきます。

日本の農業を巡っては、農業従事者の高齢化と減少に加え、2015年10月には、TPP(環太平洋パートナーシップ)協定交渉が交渉参加12カ国の間で大筋合意するなど、貿易自由化への対応や、農産物の国際競争力強化が求められています。また、日本各地の特色にあったブランド農産物の生産や、イノベーション創出などの地域活性化が期待されています。

こうした市場環境の中、日立キャピタルグループは「食」を成長戦略における育てる分野と位置付け、新たな事業モデル創造の一環として、いちごの生産・販売事業をめざしていきます。生産技術面では、栽培ノウハウの蓄積を目的に、いちごの栽培技術において実績を有する株式会社アグリス(代表取締役:中村 裕之)と業務協定を結んでいます。また、暑さに強い品種のいちごを用いることで、沖縄県での安定生産を確立して地産地消および那覇空港を起点としたアジア地域への輸出を行っていきます。

今後、各分野のパートナー企業との連携を通じて、エネルギーコスト削減やICTを活用した生産・販売の最適化などの先端システムの実証に取り組んでいきます。将来的には日本国内での新規就農者や企業参入の支援をするフランチャイズ(FC)化構想や、沖縄県と気候が類するASEAN地域での通年栽培の実現に向け、ハードとシステムのパッケージ輸出販売をめざし、日本農業の競争力強化へ貢献していきます。

■沖縄県読谷村での取り組み概念図



■沖縄県読谷村でのいちご生産の概要

- (1) 生産品目 いちご
- (2) 生産方法 いちご高設栽培システムを活用した太陽光型植物工場
- (3) 収穫目標 年間4.5トン(生産開始3年目を想定)
- (4) 生産時期 10月～3月+α
- (5) 事業用地 沖縄県読谷村
- (6) 用地面積 約800坪
- (7) 栽培施設 農業用耐候性鉄骨ハウス 300坪

■株式会社アグリズの概要

- (1) 本社所在地 福岡県八女市鶴池 477-1
- (2) 資本金 8,800万円
- (3) 代表者 代表取締役 中村 裕之
- (4) 設立年月日 1990年9月1日
- (5) 事業内容 ①農業用生産資材の開発、製造、販売
②医療用機器・器具・備品の開発、製造、販売
- (6) 売上高 70億1,590万円(2016年3月期)

■照会先

日立キャピタル株式会社 アカウント事業本部 食・農事業開発チーム [担当:京塚、長部、石田]
〒105-0003 東京都港区西新橋一丁目3番1号
TEL 03-3503-7060 (直通)

■報道機関お問い合わせ先

日立キャピタル株式会社 経営戦略室 経営企画部 [担当:関、川島]
〒105-0003 東京都港区西新橋一丁目3番1号
TEL 03-3503-2118 (直通)

以上